

製品名: トランスリンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19218**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	26kDa

抗原情報

遺伝子名	TSN
別名	TSN; Translin; Component 3 of promoter of RISC; C3PO
遺伝子 ID	7247.0
SwissProt ID	Q15631
免疫原	抗血清はヒト TSN 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

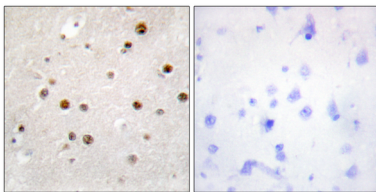
背景

この遺伝子は、染色体転座の切断点接合部における保存された標的配列を特異的に認識する DNA 結合タンパク質をコードしています。トランスリンポリペプチドは、DNA 結合活性を担う多量体構造を形成します。組換え関連モチーフとトランスリン結合部位は組

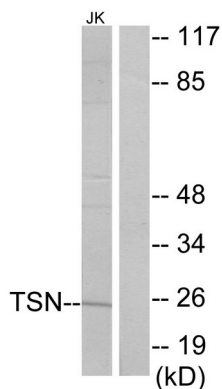
換えホットスポットに存在し、転座によって融合した遺伝子の切断点の指標として機能する可能性があります。これらの結合活性は、リンパ系腫瘍における染色体転座において重要な役割を果たしている可能性があります。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、トランスリン関連タンパク質 X と複合することで、Mg イオン依存性エンドリボヌクレアーゼを形成し、RNA 誘導サイレンシング複合体 (RISC) の活性化を促進します。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2012 年 5 月]機能: 染色体転座における切断点接合部のコンセンサス配列を特異的に認識する DNA 結合タンパク質。主に免疫グロブリン (Ig) T 細胞受容体遺伝子断片が関与する。組み換えホットスポットで生じる不連続切断によって生じる一本鎖 DNA 末端を認識すると考えられる。類似性: トランスリンファミリーに属する。サブユニット: 多量体リング状構造を形成する。TSNAX と相互作用する。、

研究分野

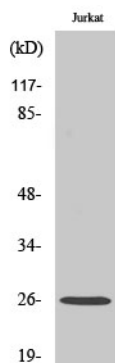
画像データ



TSN 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



TSN 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



トランスリンポリクローナル抗体を 1: 2000 に希釈し、様々な細胞をウェスタンブロット分析した。二次抗体は 1: 20000 に希釈した。